

六波羅蜜寺

起源

六波羅蜜寺は951年に醍醐天皇の第二皇子、空也上人により開創された。

当時京都には疫病が蔓延しており、上人は自ら十一面観音像を刻み、念仏を唱えながら像を曳いて都を巡り、疫病を終息させるために尽力した。そこで疫病が鎮まったのち、勅命により上人の刻んだ観音像を収める堂がつけられることになった。これが六波羅蜜寺の起源である。

実際に堂が完成したのは勅命から実に12年後、963年のことである。上人が広く民衆に開かれた寺を目指したため、貴族や豪族からの支援を受けず、民衆からの寄付で資金を集めたためであった。

文化財

六波羅蜜寺には国宝となっている本尊の十一面観音像など、約2,300点もの多様な文化財が伝えられている。その中でも特によく知られているのは空也上人像と平清盛坐像だろう。

空也上人像は悪疫退散を祈り歩く姿を表現している。また上人の唱える「南無阿弥陀仏」の名号の各文字が阿弥陀仏の姿となったという伝承にもとづき、口から6体の小さな仏像が生み出されている。

平清盛の肖像としては最古とされる平清盛坐像。その力強い表情からは、平家一門の長として栄耀栄華を築き上げた清盛の気迫が伝わってくるようである。

空也上人像

平清盛坐像

六波羅蜜

寺の名称となっている六波羅蜜とは、悟りに達するための6つの修行をいう。

布施

見返りをいっさい求めない施しや奉仕のこと

持戒

この瞬間におけるすべきこと、そうでないことの判断

忍辱

辱めを受けても相手を理解し、耐え忍ぶこと

精進

限りある生命のなかで、日々努力すること

禪定

第三者の視点から自分自身を認識すること

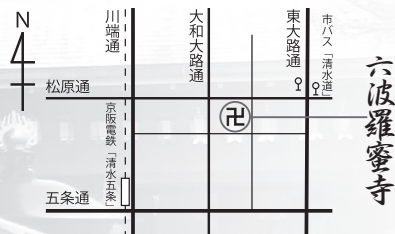
智慧

生まれつき持っている認識力で真実を見極めること

若者へのメッセージ

住職の川崎純性さんは「若い人たちには決して、何があっても、あきらめないでほしい」と言う。「長い人生を歩んでいく中で、楽しいことより辛いことのほうが多い。しかしそれを克服しようと努力する喜びが人生」なのだと続ける。

「人生は二度ない。やりたいことがあればとにかくやってみてほしい。夢をかなえるということは生易しいことではない。でも、もし求めるものがあれば、それを得るためにどうすればいいかを考え、それを貪欲に追い求めてほしい」と私たちを教え諭す住職の表情は、穏やかで慈愛に満ちた仏を思わせるものであった。



拝観時間 8:00~17:00 (通常)
宝物館拝観時間 8:30~16:30 (受付終了)
宝物館拝観料 大人600円
大学生・中高生500円
小学生400円
※30名以上の団体は各50円引

アクセス 市バス「清水道」下車徒歩10分
(「百万遍」から206系統で15分)
京阪電鉄「清水五条」下車徒歩10分